

第2号議案

令和2年度 公益財団法人 いのちの森文化財団 事業報告書

(令和2年1月1日～令和2年12月31日)

健康社会教育事業（講座・講演・フォーラムの開催）

健康的な社会生活を送る為の講座の開催。ガン専門病院名誉院長の帯津良一先生、気功の第一人者の中健次郎先生、高野山阿闍梨の宮島基行先生、感覚感知学研究家の細金勝治先生、精神科・心療内科の医師であり禅僧でもある川野泰周先生、昭和大学医学部名誉教授藤本司先生、自然療法家の和田雅子先生の講座を開催する計画であったがコロナ禍のため1月に中健次郎先生の「気功合宿」と宮島基行先生の「こころの探求」のみ開催し、2月以降は開催を控え次年度に開催を延期した。

1. 気功合宿 1回（令和元12月29日～1月5日）

講師 中健次郎先生(気功第一人者) 気功の実習・講演

2. 心の探求 1回（1月11日～13日）

講師 宮島基行先生(高野山真言宗阿闍梨・南山流声明第一人者)

人間の悩みの根元を追求しつづけている宮島師の心を解く講座

3. 高齢者の生きがい創造・青少年育成事業

シェアハウス構想の実現のため新規に土地を購入した。費用は1000万円。隣地は水輪の会で2区画確保されており、いのちの森文化財団に寄付される予定である。引き続き建設資金の基金を募る。

文化事業（ワークショップ）

生体エネルギーと心の仕組み、日本文化の源流を訪ねるワークショップを計画していたが コロナ禍のためすべてを中止した。

青少年育成事業（環境保全と里山文化・日本文化の継承、意識教育講座）

1. いのちの森青少年育成公開講座（各方面で活躍する講師による公開学習会を開催する。）

医療、音楽、建築、伝統文化、農業、経済、歴史、人間学、哲学、経営、茶道など様々な分野の学びをとおして心の成長を図る講座を計画していたが以下の講座のみ開催した。

1月4日 中健次郎 先生(気功家・鍼灸師) の講座。

喜多郎氏による和太鼓の指導とNHKでかつて放映された「シルクロード」の映像と喜多郎氏の講話を隔週火曜日に開催した。開催は9月から11月までの3カ月。

2. 自然環境講座

飯網高原山野草花壇づくり

水輪ナチュラルファームの圃場を用いてハーブの花壇づくりを行った。

講師 塩澤研一(いのちの森文化財団副代表理事)

自然環境保全活動として地域の清掃活動行った。11月1日～11月30日までの1カ月

3. コケ玉グリーンアートセラピー

講師 塩澤みどり（意識教育カウンセラー・ケアリスナー・いのちの森文化財団代表理事）

信州に自生する実生の植物の採集と観察。コケの観察と採集の後、アートセラピーとしてのコケ玉教室を開催する計画であったがコロナ禍のため中止した。

4.リーダーシップセミナー 随時開催

講師 塩澤みどり（意識教育カウンセラー・ケアリスナー・いのちの森文化財団代表理事）

青少年育成講座の一環としてリーダーシップを養う教育カウンセラーによる実習を毎週2日間行った。

5.東日本大震災支援

東日本大震災支援のため指定寄付金を募り、福島第一原発の事故の被災地である福島県南相馬市の保育園などを中心に、飯綱高原の自然農法野菜を支援物資としてお届けした。

6. 青少年育成基金

近年うつ、ひきこもり、不登校の青少年が増加しているが、経済的事情により社会復帰や自立のための教育を受けることが困難な方が増えてきている。自立・社会復帰を果たしたいという希望のある方々には、できる限り自立できる段階までの教育を受けられるように基金を募集し、支援を行う。現状では、青少年育成公開講座や青少年育成・自立支援個別相談事業を井上弘寿医師と塩澤みどりカウンセラーを中心に毎週3日から4日おこなった。

また、青少年育成事業として近隣にある音楽堂（ホテルアルカディアが所有していたもの）を青少年育成基金を用いて取得した。取得費は3000万円、改修費並びに不動産取引に伴う費用として1200万円ほど使用した。また水輪の会から取得費と改修費として3000万円の寄附を頂いた。

8月11日は仮オープンし、喜多郎氏の他に鹿嶋静氏、岡野弘幹氏がアーティストとして参加した。

自立支援・社会復帰支援事業

社会的に自立が出来ない青少年に対する支援活動。

1. 青少年育成・自立支援個別相談事業

相談者：塩澤みどり（当財団代表理事・心理教育カウンセラー）

アドバイザー医師：井上弘寿（いのちの森クリニック院長、精神科医師、信濃病院）

対象：不登校、ひきこもり、ニートなどで悩んでいる本人および家族。

相談者は長年、青少年育成に関わってきた経験に基づき、人間関係や日常生活のことなど可能な範囲で情報提供または助言を行い、相談内容に応じては、医療機関や支援機関や専門家を紹介することを通じて、自立支援・社会復帰支援を行った。カウンセリングは毎週3日から4日行い社会復帰支援の事業に最善を尽くした。それ以外の講座は中止・延期とした。

2. 自然農園体験学習と援農ボランティアへの支援活動

（長野市社会福祉協議会主催のサマーチャレンジボランティアへの協力含む）

を計画していたが中止した。

情報提供事業（精神医学・心理学を基軸に意識の変容を迫る啓蒙事業）

1.いのちの森通信の発行 年4回 5,000部 A3版4pの計画であったが1月に1回のみの発行とした。

以上